

第2学年 生活科学学習指導案

日 時 平成16年10月6日(水)5校時
場 所 2年2組教室
児 童 2年2組 男子18名 女子7名 計25名
授業者 高橋 健司

1. 単元名「三りくてつどうででかけよう」

2. 単元について

(1) 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年の内容(4)「公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えている人々がいることがわかり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。」を受けて設定したものである。

児童にとって公共物や公共施設を利用することは、自分自身の生活を広げたり豊かにしたりするために大切である。そして、それらを積極的、有効的に利用できるようになるためには、公共物や公共施設を実際に利用して、自分の生活に生かしたり、自分以外の人のことを考えて行動したりする体験が不可欠である。このような能力や態度は、国際化の進む社会においてさらに求められるようになる。

本単元で取り上げる三陸鉄道は、身近な地域の公共交通機関である。これを実際に利用することを通して、身の回りの公共物や公共施設を大切にし、安全に気を付けて正しく利用できる力や自分自身のよりよい生活をつくり出していく力を養いたいと考え、本単元を設定した。

(2) 子どもについて

子どもたちは、1年生の生活科の学習で、最も身近な公共施設である学校の探検や近くの公園、アジアの広場での活動を通して、公共の意識を身につけてきた。2年生でも、まち探検、お店探検で公共の意識を広げてきている。また、村のプールでの学習や交通手段としてのスクールバスの乗車でも公共の意識が育ってきている。本単元では、鉄道という一般の人々も多く利用するものを取り上げることで、子ども達の活動の範囲や公共の意識をさらに広げることになる。

本単元で取り上げる三陸鉄道の児童の乗車体験は73%であった。そのほとんどが、保育所ときの遠足での体験であり、児童の日常の移動手段としての利用は、皆無である。

しかし、だからこそ、地域の三陸鉄道を実際に利用し、そこでの物や施設、人とかわりながら「他の人も使っているからていねいに使おう」「きちんと並んで順番を待とう」というような公共の意識を一層高めていきたい。

(3) 指導にあたって

乗車体験の前に、乗り物ごっこやしおり作りを通して、乗り方のルールやマナー、安全について考えさせるとともに、三陸鉄道に関心を持たせたい。

乗車体験では、切符の買い方、乗り降りの約束、お礼など、実際の生活に必要な習慣や技能を身に付けさせたい。また、運転手や車内に設置されているものを観察させることでいかに三陸鉄道が、安全に気をつけているかに気付かせたい。

探検報告会では、三陸鉄道を利用したことや利用して楽しかったことなどを表現するとともに、三陸鉄道が自分達の生活の豊かさにつながっていることにも気付かせていきたい。

単元を通して、三陸鉄道の正しい利用が安全と密接に関係していることを押さえ、自立への基礎を養いたい。

3. 単元の目標（観点別目標）

（1）関心・意欲・態度

- ・三陸鉄道に関心を持ち、みんなのことを考えて、正しく利用しようとする。

（2）思考・表現

- ・三陸鉄道の正しい乗り方と安全の関係について考えることができる。
- ・三陸鉄道を利用したことや利用して楽しかったことなどを表現できる。

（3）気付き

- ・三陸鉄道は、みんなのものであり、それを支えている人がいることに気付く。
- ・三陸鉄道が自分達の生活を豊かにしていることに気付く。

4. 指導計画

1、三りくてつどうでかけよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(7)

- ・列車やバスの利用の経験を話し合い、乗る練習をする。(1)【本時】
- ・小さな旅(ミニ遠足)の計画を立てる。(1)
- ・目的地に行くためのしおりをつくる。(1)
- ・小さな旅(ミニ遠足)に出る(4)

2、たんけんほうこくかいをしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(4)

- ・三陸鉄道に乗った様子や探検した様子を多様な形で表現し、旅をまとめる。(2)
- ・グループごとの発表をする。(2)

5. 本時の指導

（1）本時の目標

話し合いや乗り物ごっこを通して、三陸鉄道に関心を持ち、正しく利用しようとする。

（2）本時の展開

段階	学習活動	教師の支援	評価の視点	準備
とらえる (10)	1、三陸鉄道に乗った経験を話し合い、今日やることを確認する。 三りくてつどうに正しくのるれんしゅうをしよう！	・映像クイズから、三陸鉄道への関心をもたせる。 ・三陸鉄道に乗った経験を話し合わせ、三陸鉄道に関心を持たせる。 ・目的意識を持たせ、意欲付けを図る。		・机の撤去 ・パソコン ・プロジェクター ・スマートボード

		映像クイズや話し合いを通して、三陸鉄道に関心を持つことができたか。	・公共物の映像
追究する (30)	3、乗り物ごっこを通して、正しい利用の仕方を練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の前に三陸鉄道を見立てた空間を作り、ごっこ遊びを通して、実際にやってみたり、考えたりできるようにする。 ・乗る手順とマナー・安全面を分けて、構造的に理解できるようにする。 ・子どもたちの気付きやつぶやきをとりあげ大切にする。 ・運転手から聞いた話を語り、より関心や安全面の意識をもたせる。 ・意欲的に活動している子どもや発言している子どもを賞賛し、全体にも意欲や関心を広げていく。 <p>乗り物ごっこを通して、三陸鉄道に関心を持ち、正しく利用しようとしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸鉄道に見立てた空間と椅子 ・運転手の帽子 ・黄画用紙カード ・マジック ・三陸鉄道内外の映像
まとめ (5)	3 本時の活動を振り返り、次時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り方やマナー・安全面を確認する。 ・わからなかったことを確認し、調べ方を考えさせる。 <p>今日の活動を振り返ることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告する。 	

(3) 本時の評価

評価規準	具体的評価規準 A	具体的評価規準 B	Cへの支援
話し合いや乗り物ごっこを通して、三陸鉄道に関心を持ち、正しく利用しようとしている。 (関心・意欲・態度)	進んで話し合いや乗り物ごっこに参加し、三陸鉄道に強く関心を持ち、正しい利用の仕方を考えようとしている。 (観察・発言)	話し合いや乗り物ごっこを通して、三陸鉄道に関心を持ち、正しい利用の仕方を考えようとしている。 (観察・発言)	乗り物ごっこに参加させて、三陸鉄道に関心を持たせる。